

# 北海之光

## 7月号 北海道教区報

安らかに信頼している

ことにこそ力がある

イザヤ書 30章 15節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nsskk-hokkaido.jp

http://www.nsskk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

### 「七月の随想 ニネベの聖イサクとサクラ貝」

聖マーガレット教会牧師  
岩見沢聖十字教会管理牧師

司祭 ヨハネ 池田 亨

「いつか、テゼに」という憧れから一九八八年、テゼ共同体に願い、小冊子を送っていただきました。院長ブラザー・ロジェ師は、ニネベの聖イサクの言葉を引用し、神を讃えて記していました。イエスは世を裁くためではなく全ての人の救いと和解のために来られた。神は「ご自身の愛を与えずにはいられない」お方。「神は愛。ただ愛」そのもののお方である、と。

聖イサクは「神の裁き」の教説を退け「愛・ゆるし」だけが神の全てであると謳った七世紀、ネストリウス派、沙漠の隠修士。興味を持ちましたが、当時、邦語文献は皆無でした。(明治後期に邦訳あり)しかし、幸いにも一九九〇年秋、抄訳が出版されたのです。ロジェ師が引用した言葉を隈無く捜しましたが、確認

できませんでした。但し、ロジェ師が影響を受けたであろう言葉の数々を見出すことができました。以下、今回の私の主観的抜粋と構成による『ニネベの聖イサク語録』のミニマム版でございます。「さあ来たりて驚きに満たされよ。神の罪人への報いは義の報いに非ず、罪人に復活をあたえん。全人類の大罪は神の愛に比するなら大海に投入れられし一握の砂の如し。主の許に走れ。主は全ての邪悪を赦し罪を取除く。神の恵の洪水は我を沈黙させるなり。何より沈黙を愛せよ。神こそ流れ衰えることなき愛の泉。イエスを渴き求めよ。神は大いなる愛により強い事望まず。恵の宣言者たれ。正義より善を体得せよ。喜びなきところへ平安なし。隣れみの心から涙して全被造物のた

め祈るべし。」(A・M・オーチン編『同情の心』聖公会出版一九九〇年初版を参考に)泉のような聖イサクの言葉に惹きつけられます。神の愛、ゆるしに圧倒されます。ゆえに、この聖霊降臨節、霊的巡礼を聖イサクの抄訳本に再び求めました。ゆっくり読み進むなか、本文の豊かさと掛け離れた妙な書込みが目にとまりました。時折、頁の余白にサヨリ、ボラ、イカ、：サクラ貝とあります。はてな。しばし記憶を辿ります…。私は一九九三年の春から日本基督教団佐渡教会に四年間仕えておりました。牧師館の玄関から百メートル程で海岸。そこには真野湾がありました。仔犬を飼い始めたこともあり、朝な夕な、入海を見て暮らしていました。海岸線は愛犬お気に入りへの散歩道。その道は私にとって黙想の小道でもありました。その折々に記したものです。サクラ貝の思い出を記しましょう。真野湾において、殊に初夏の時化のあと、その貝殻が海

草に紛れて浜辺に打ち上げられます。約二センチの光沢ある桜色の二枚貝です。私は宝石のような貝殻を見つけては小躍りしていました。頁の余白にサクラ貝と記した本文には「潜水夫は真珠を見つげるために裸で海に潜る」とあります。キリストを求め姿勢を、いみじくも巧みに言い表した言葉です。同じ余白に私の注釈と日付も鉛筆書きでありました。「潜水夫はキリスト。真珠はわたし。キリストはあらゆるものを投げ捨てて命がけでわたしを見つげ、価高い宝として救い上げてくださる。1994.7.10Sun」

主客転倒。でも、小躍りしたくなる解釈。聖イサク師父も、笑って驚く曲解です。思い出します。サクラ貝を真珠に見立て黙想した日のことを。佐渡の日々を。愛犬との散歩、浜辺でサクラ貝を探した懐かしい思い出と共に、聖イサクと昔の私が今の私を慰めます。



—心の窓をひらひら—

# 福音と私(二三九)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか



釧路聖パウロ教会信徒

ルツ氏 家節子



## 【好きな聖句】

あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土からとられたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る。

〔創世記三章一九節〕

この言葉を最初に聞いたのは中学二年生のころ、現代国語の教師が、何かの物語の合間に話したと憶えている。今でいう、中二病の心理は深い感銘を覚えた。

「人の生涯をこんな短い言葉で、こんなに適切に言い表せる知恵は何だろう。」

それがキリスト教という思想との出会いだった。好きなというより、大切な言い換えたほうがいいのかもしい。やがて、私を回心に導い

てくれる聖句である。

その後は人生の意味や生死を問うことはなく、ある意味では悟った、別の言い方をすれば、覚めた感覚を持ったように思う。

『いずれちりに帰る身が何を思い煩うか。』

それは自暴自棄とは正反対の世俗への決別のような思いだった。

この思いは、自立心となり、当時(五〇年前)女性が自立できる職業は医療系しかなかったので、難易度の低い看護師を選択した。看護師を志す者の通過儀礼に、戴帽式というのがある(看護師の象徴のキャップを戴く)。

この時、ナイチンゲール誓詞というのを全員で暗唱す

る。

冒頭『我はここに集いたる人々と、神の御前に厳かに誓わん』から、愛、奉仕、献身、清廉等々を誓うのだが、神に関心はあつても実在はしなかった。現実的だった。

そんな独身時代を終えて、結婚。婚家とは別居。婚家は、聖公会に改宗して三代目、主人で四代目であるが、信仰は衰退していた。訪問してくる司祭は「金を取りに来る」借金取り扱いだった。

長男が誕生後、病院に復帰した。そこから、次男誕生後の勤務先変更を経て約三〇年を釧路の病院の臨床で過ごした。五〇歳を過ぎて放送大学を受講し、定年退職を迎えた。

のんびり暮らそうという思いは三月で挫折。考える目標がないことがストレスになり福祉系に再就職。学び続けることを後押ししてくれる職業は私に向いていたのかもしれない。

義母が逝去した折、受洗者ではなかったが、教会葬をし

てもらえた。その後は、私の家に「教会だより」が投函される。献金を持って教会に行く。次男が入園した保育園が、聖公会運営の頌栄保育園だったので、教会行事にも参加した。この頃は知り合った人から紹介された、プロテスタント教会に集って、日曜クリスチャンをドラドラと続けていた。キリスト教神学に関心があつたからである。関連本をかなり読んだ。

それなら聖公会に集えばいいのにな。いやいや、そんなことをしたら改宗してしまう。私は人が苦手で話題がない。話しかけられても続かない。仕事など、共通の了解があるものは問題ないのだが。付き合いの方がわからない。まるで青い目の人形の歌のようなものである。

平成二九年、義父が九〇余年の生涯を終えた。家系図や受洗者について、教会に多大な犠牲を払っていただいて整理することができた。義父は洗礼を受けたことすら失念し

ていた。この作業と、義父への癒しの訪問、葬儀などで教義に触れる機会が増した。

恐れていたとおり、二〇一七年一月二六日受洗。同年一二月二五日堅信。未だ、♪優しい日本の嬢ちゃんよ、仲良く…である。

ある日の聖餐式の奉献の祈り。私は求め続けた神に出会った。『すべては主の賜物。わたしたちは主から受けて主に献げたのです。』

人生の苦楽も悩みも、栄華も、功名も、世の知恵も主のもの。御前に差し出して献げ、ちりだからちりに帰る。

感謝 北海の光献金(敬称略)



### 常置委員会報告

第九回 六月一五日

#### 協議事項

- 一、七月以降のコロナ対応(礼拝・集会)に関する件
- ・各教会の主体性を尊重しつつ、七月も引き続き六月と同



## 主教室より

六月二三日は「沖縄慰霊の日」でした。一九四五年のこの日、二〇万人以上の戦死者(その半数以上は住民)を出した沖縄での悲惨を極める地上戦が終結したといわれています。日本聖公会では毎年、この日を含む一週間を「沖縄週間」として覚えてきました。その特祷には、「わたしたちを平和の器にしてください。嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、敵意と憎しみのただ中にあなたへの愛と赦しをお与えください。私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中に癒しを、疑いの中にあなたへの信仰を豊かに注ぎ込

んでください(一部)とあります。

沖縄を覚えて祈るこの特祷が、コロナ禍の中で様々な思いを持ちながら生きる私たちに何か通じるものがあると感じました。沖縄の方々は今もまだ苦しみの中にあることに目をそむけてはいけなさと分かっているながら、私たちはいつも自分の生活を優先しているのが現実です。しかし、このコロナ禍で、私たち自身、思いもかけない苦しみを味わう日々を送っています。当たり前だった普通の生活が困難となる中で嘆きと苦しみ、人との擦れ違い、親しい人を遠ざけなければならぬ理不尽を余儀なくされ、時には敵意と憎しみが心を支配することに

植松 頌(東京都)

様の対応を各教会・信徒に求めることとした。  
・新しい教会の在り方(教会生活)について近く予定されている「教役者の集い」でシェアすることとした。  
二、「教役者の集い」に関する件

・六月三〇日〜七月一日、札幌キリスト教会で開催することとした。  
三、「伝道教区制」(案)に関する件  
・主教より「伝道教区制」についての説明を受けた。植松 主教退任の時期も考慮に入れ

自分自身が驚き、悲しみ、このような時、どのように平和を創り出す人になれるか、荒んでいく自分の心に凜然としていることが多いこの頃です。

沖縄の方々の歩んでこられた困難と苦しみを思うとき、今の私たちが置かれてある状況は比喩のものにならないほど小さいと思いがながら、でも、ほんの少し、今私たちがコロナ禍にある時に、いえ、コロナ禍にあるからこそ、その困難や苦しみを自分のものとして感じられるのではないかと、上に挙げた沖縄週間の祈りは、まさに今の私たちのための祈りだと思われました。  
主教 ナタナエル 植松 誠

## 十 教区逝去教役者 記念聖餐式

ながら、今年の管区総会・教区会に向けて、協議を進めていくこととした。  
四、阿部恵子執事司祭按手式に関する件  
・日時、場所に関しては主教に一任した。

八月二日(水)

午前一〇時三〇分 於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

- 執事 高津 守三郎 一九〇九年八月二日
- 司祭 林 兼治 一九三八年八月四日
- 執事 高橋 俊夫 二〇一〇年八月四日
- 伝道師 高野 万次郎 一九三五年八月五日
- 司祭 上田 貞雄 二〇〇六年八月七日
- 伝道師 清川 戊七 一九五八年八月一〇日
- 伝道師 石原 園井 一九一五年八月一五日
- 司祭 村瀬 敬輔 二〇〇九年八月二七日
- 執事 高橋 俊六 一九四五年八月三〇日

### 二〇二〇年ユース・アツセンフリー中止のお知らせ

主の平和がありますように。北海道教区では、毎年八月に三泊四日でユース・アツセンフリーを開催してきましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止とすることといたしましたのでお知らせいたします。

毎年楽しみにして下さっている子どもたちや青年とのプログラムを中止とせざるをえないことはとても残念です。八月のユース・アツセンフリーに代えて、該当代を对象としたプログラムの可能性も柔軟に検討していく予定です。  
教区青年担当・司祭 永谷 亮

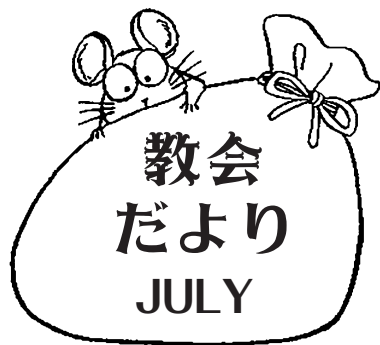
教主降生 2020年7月13日

### 公 示

日本聖公会北海道教区  
主教 ナタナエル 植松 誠

神のお許しがあれば、執事エリザベツ阿部恵子を公会の司祭に按手いたします。皆様のご参列、代祷をお願いいたします。

日時 2020年8月22日(土) 午前10時  
場所 北海道教区主教座聖堂(札幌キリスト教会)  
説教者 司祭 クリストファー 永谷 亮  
式典長 司祭 ベテロ 大町 信也  
祭色は赤を用います。式後の祝賀会、会食はありません。



▽旭川聖マルコ教会

六月も教区のコロナウイルス対策の指針に基づき、委員会で話された当教会での感染対策を講じて(今まで以上に注意を払って)祈禱書準拠短縮版・聖餐式の継続(毎礼拝は二〇名弱の出席者)と、定例委員会(時間を短くして)そして聖書輪読会を再開しています。もうしばらくこのような信徒各自の判断での礼拝出席となりますが、このコロナ禍を乗り越えましょう。

一三日にご逝去された田所悦子姉の魂の平安をお祈りします。

頌栄保育園では全園児の登園が続いています。うれしい事です。保育園の職員の努力

があつてのことだと思いません。感謝いたしました。

▽岩見沢聖十字架教会

緊急事態宣言の解除後、六月に入り幼稚園も通常保育になって賑わいが戻りつつある。教会は引き続き、自粛して家庭等で礼拝をお捧げする。

そのような中、待望のマスクの配布と特別定額給付金が支給される。愛する国と行政の温情に心から感謝します。

月に一度、主教練と池田司祭から「コロナ対策のお知らせ」が送られてくる。時には礼拝に出席できない寂しさもありますが、お知らせを通して信徒を案じて下さる事を改めて知る。私たちは離れていても一つです。アーメン。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

六月七日、感染対策を取りながら、三位一体主日の礼拝。釧路頌栄保育園・鳴海範子新園長、及川由美子信徒代議員、飯沼勇一教会委員の任命・祝福式が行われる。委員会では、

各部の報告と厚岸の礼拝も検討された。一三日、前田家逝去記念礼拝が行われる。

二〇日、ルカ遠藤洋一さんが逝去されました。長い自宅療養中、由美子さんと共に聖書の輪読をし、愛唱歌を歌い、主と共にいる日々を過ごされていきました。魂の平安とご遺族に、主の慰めが与えられますようお祈りします。

保育園では天気の良い時間、年長さんはマスクをつけて、年少さんも元気にお散歩タイムです。保育園の先生方の働きに感謝。

▽小樽聖公会

いつもの六月の小樽は街のあちこちでお祭りが続き、観光シーズンも迎えて賑わいに満ちているのですが、今年はとても静かです。制限が緩められ観光名所にも人が少しずつ戻ってきたように思えたのですが、この原稿を書いているとき、教会から歩いて五分の花園地区で新型コロナのクラスターが発生し、繁華街は昼も夜も人通りはまばらで

す。

教会では換気や消毒、人と距離や飛沫対策など、教会と出席者がそれぞれに十分な対策を講じて安全に主日礼拝をお捧げしています。

▽新冠聖フランシス教会

六月一四日(聖霊降臨後第二主日)、イースター以来二か月ぶりの聖餐式をお献げすることができました。それも急遽、主教さまご夫妻の来訪をいただいたことです。退院された小泉たかしさんと肥田美代子さん、そして熊谷まき子さんも出席されました。

二三日(火)、門別愛生苑におられたリベカ後藤富子さんが逝去されました。二五日に平取聖公会に於いて家族葬にてお送りし、二八日の主日に新冠の教会の納骨室に安置しました。主の御許での平安を祈ります。

▽帯広聖公会

晴天率の高い帯広ですが、雨天と低温が続き、ストーブが離せない生活が続いています。信徒さんは夫々の場所で

祈りの時を持ち、教会では七〇八名の出席ですが『み言葉の礼拝』を守っています。聖歌もチャントも無い式ですが思い切り歌える日を心待ちにしています。尾関敏明さんの神学院での学びと橋本知樹さんの教区財政部長の力強いお働きにエールをお送りします。阿部執事の司祭接事も日延べになりましたが、併せてお祈りしています。

▽稚内聖公会

いつもは「道北四教会合同礼拝」の準備等で人の往来がある季節だが今年は一ひっそりとしたまま。当地にて開催予定の管区の「人権セミナー」もコロナのため延期。でも礼拝はいつも通りです。ヒムプレーヤーが威力を発揮、聖歌五八〇番まで全部歌えますよ！戦争の記憶を後世に残すための「赤レンガ通信所」修復プロジェクトが完了。この通信所から真珠湾攻撃や硫黄島玉砕の打電が行われた由。戦争に翻弄された国境の街稚内の歴史が見える。

〔草原の果たてにノアの虹立  
てり わぶん〕

▽函館聖ヨハネ教会

道内のコロナウイルス感染  
が止まらないなか、聖堂受付  
には消毒液と透明のビニール  
カーテンを設置して感染防止  
に努めながら、教会は普段に  
戻りつつあります。

六月一日、教会墓地にて昨  
年暮れ一〇一歳で亡くなられ  
たソフィア市川登美子さんの  
納骨埋葬式。一七日、司祭夫  
妻と有志三名、今金インマヌ  
エル教会の草刈り奉仕。郭公  
が鳴くなか汗を流す。

中村まゆみさんデザインの  
素敵な来教記念スタンプが完  
成し、聖堂入口に設置。オー  
ブンチャーチが待ち遠しい。  
LINEによって教会に来られ  
ない方々の近況の共有を開  
始。

▽札幌キリスト教会

外出自粛が解除され少しず  
つ、主日礼拝に出席する方も  
増えてきましたが、引き続き  
三密にならぬよう工夫し細心  
の注意を払っての礼拝です。

六月二二日、沖縄週間企画  
「沖縄の旅」にインターネッ  
トを介して五名が参加。三〇  
日、小林芳子さん、ご逝去。

召されし霊の平安をお祈りし  
ます。月報「天路」では、し  
ばらくお会いしていない方や  
子どもたち、教会の近況報告  
や写真掲載もあり励まし、癒  
しをいただけることに感謝で  
す。このような状況の中でも、  
お互い思いやり、笑顔で過ご  
せるよう、お祈りしています。

▽札幌聖ミカエル教会

聖ミカエル幼稚園が保育を  
再開、待ちわびた子どもたち  
が元気に戻ってきました。月  
曜日の礼拝は礼拝堂で全員が  
集まることはできず、チャプ  
レンが三つの教室を回って  
行っています。保護者の方々  
からは、コロナ禍での子育て  
の難しさや困惑が伝わってき  
ます。そんな中でたくましく  
仕事に励む先生たちの姿に力  
をもらっています。社会の混  
乱が子どもたちに少しでも影  
響しないように願います。

教会は七月から日曜学校を

再開します。少しずつ、細心  
の注意を払って日常を取り戻  
したいと思います。

▽新札幌聖ニコラス教会

コロナ禍にあつて、教会に  
光あり。角田直輝・恵梨子夫  
婦に長男光(ひかり)君の誕  
生。家族の健康と祝福を祈  
る。年内に教会外壁塗装を計  
画中。マーマレード、布マス  
クなどの手作り品での心から  
のお支えに感謝。献花、オル  
ガンの礼拝奉仕も戻り、未だ  
消毒、体調管理を気にしつつ  
も少しずつ元の形に戻りつつ  
ある。賛美の音が響く時を祈  
りつつ待つ。

▽平取聖公会

新聖フランシス教会の信  
徒で隣町日高町の老人福祉施  
設に入所しておられた、後藤  
富子さんの葬送式が、六月  
二五日、ご遺族のご希望で平  
取聖公会で内海牧師の司式で  
執り行われました。ご出席は  
喪主の娘さんと妹夫妻の三人  
でした。教会の信徒四人がお  
手伝いしました。

新型コロナウイルスの感染

予防のために上映が中止され  
ていた苫小牧の映画館が再開  
されて『風の谷のナウシカ』  
が公開されていました。記者  
は大画面で観るのは初めてで  
したが、素晴らしい作品でし  
た。でも、画面の中は人類が  
穢した瘴気に包まれ、人は皆  
マスクをしていました。

▽苫小牧聖ルカ教会

まだまだマスクが外せない  
日々が続いております。じつ  
と暑い日もあり、外出時  
はマスクの中が大変です。  
礼拝はなかなか参加できな  
い方もおり、毎週数人ですが  
感染対策をしっかりとしなが  
ら行なっております。毎年こ  
の時期は幼稚園の運動会でし  
たが今年も新型コロナウイルス  
のため延期。それでも幼稚  
園の中で子どもたちの日常  
は変わらず元気いっぱいに過  
ごしています。一日も早く、  
また教会の皆さんでお茶を飲  
みながら楽しいお話ができる  
日を祈る日々です。

▽網走聖ペテロ教会

網走はイースターに短縮形

式礼拝が在って後、自宅礼拝  
が続きました。六月一四日に  
礼拝堂短縮形式礼拝・教会委  
員会再開。次いでみことばの  
礼拝も再開。六月は聖歌、入  
堂と退堂の二曲です。礼拝堂  
礼拝自粛の間中、礼拝堂内  
は、司祭夫人まゆみ姉からの  
シクラメンが咲き続けまし  
た。自粛中の自宅礼拝では、  
改めて聖公会の祈祷書・聖書  
日課・聖歌集の良さを感じる  
時でもありました。教会駐車  
場端では、コスモスが背を伸  
ばしています。鱒浦海岸では、  
ハマナスの花が咲き始めてい  
ます。

▽留萌キリスト教会

低温が続く六月、農業の小  
林さんは老体の声を聞きなが  
ら、ようやく田植えが完了。  
今年も美味しい米が収穫でき  
ますように。

一四日の聖餐式に、名寄の  
藤井夫妻の長女、美香さんが  
愛犬のハルちゃんと共に来  
留。バザーの手作り品を貰っ  
てばかりでしたが、初にお目  
にかかり一同大感激。またお

会いしましょう。

今後の礼拝の持ち方について話し合い、偶数週で聖餐式、その他はみ言葉の礼拝を行うことにしました。全員でコロナ禍を乗り切るのが目標です。

#### ▽有珠聖公会

新型コロナウイルスの影響により、四月・五月は、お休みをした聖餐式でしたが、六月二八日、植松主教様の巡回のもと、一九名が集って聖餐式が捧げられました。三か月振りに町中に響く教会の鐘の音は、会堂に集う一人一人の胸の内にも深く響きました。礼拝後いつもは礼拝堂の後ろのスペースでお茶の会をするのですが、三密を避けて玄関前の参道に椅子とテーブルを出して屋外のお茶会となりました。

#### ▽紋別聖マリヤ教会

六月だというのに気温が低く、くもり空の多い日が続いています。新型コロナウイルスの影響で休んでおりました教会幼稚園も六月から再開さ

れ嬉しいですね。教会では、

四月から釧路より赴任された前田園長さんと教会員の皆さんが協力して、み言葉の礼拝を始めました。札幌からは管理牧師にならされている主教さんが指示を出してくれています。

礼拝後はテーブル、椅子の消毒をしています。体調に気をつけられ主の恵みがありますように。

#### ▽今金インマヌエル教会

六月一四日、七名で礼拝を守る。一七日には境内整備のため草刈り作業、六名の奉仕。函館からも藤井司祭、直さん、山崎ご夫婦、志賀さんのお手伝い。くるみ、ドングリ、栗、でっかい花の咲く木(このように報告を受けました)の植

らして下さい。

#### ▽北見聖ヤコブ教会

教会前のプラタナスの道も豊かに色付いて来ました。岡嘉彦さんの叔母和子様が六月一四日札幌で逝去され、一八日に葬送式・納骨式が執り行われました。魂の平安と永遠の光明をお祈りいたします。

聖餐式・教会委員会が七日に行われ、み言葉の礼拝は一四日に行われ、ほぼ通常通りにスタートしています。先日、高橋さんのお子様教会の外回りの環境整備をしてくださり感謝。

司祭のY.M.C.A.での「お礼拝」や運営委員会もスタートいたします。主に感謝。

#### ▽深川聖三一教会

六日、百万石の米どころの深川の水田では、苗が緑に映る風景や良し。四日、保育園職員会議、消火器使用の申し合わせをする。保育園の礼拝での講話は、主イエスの病氣・悪霊退治の連続主題。七日教会委員会、自粛中の行事、財政等相談。一四日教会報発送

作業を全員で行う。二八日宣教開始一二二年記念礼拝。いつもなら主教様をお迎えして

の盛儀のところ、今年は小祝祭となる。しかし振舞は豊かに、教会から深川の銘菓を教員、保育園職員に贈る。保育園新職員栄養士櫻井樹奈さんと調理員服部こずえさん礼拝に出席、歓迎。

#### ▽聖マーガレット教会

六月三日(水)ニセコワーク。教会が管理する土地の草刈作業を行う。四名の参加。

七日(日)三位一体主日。植松主教司式による聖餐式。コロナ禍にも関わらず、毎主日、聖餐式をおささげすることがゆるされている。感謝なことではなからうか。

八日(月)ルカ坂牛榮治さん逝去。九三年のご生涯。札幌において地域医療に捧げた人生。教会にて葬送式を行う。主よりの平安を祈る。

二八日(日)教会委員会。今後の教会行事の事など協議する。中止決定があいつく。止む無し。

#### ▽室蘭聖マタイ教会

六月中すぎより雨も交え、ぐずぐずの寒い室蘭です。

一四日、吉野司祭による聖餐式。後教会委員会。司祭は週報、聖歌、説教を一ヶ月分コピーして下さり感謝。

二二日藤井兄のみ言葉の礼拝。札幌キリスト教会より鈴木康、文夫妻(元室蘭にいた)が見えられ又、故白藤久枝姉の妹高橋真理子姉(未信徒)も来られ、少ない人数ですので嬉しく共に祈る。

二八日主日、三千代夫人が来教され、久し振りに三千代姉のオルガンで皆嬉しく歌う。礼拝後すぐ有珠に向かわれました。一同感謝。

